THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは機会の扉を開く
Rotary Opens Opportunities
ロータリーは地域とともに

ＲＩ会長　ホルガー・クナーク　　2020～2021　　富津中央ＲＣ会長　渡辺　務

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

№2626 第11回例会 2020. 10. 15 雨

点　鐘：渡辺　務　会長
進　行：玉井百合子　SAA
ソング：奉仕の理想

会長挨拶

渡辺　務　会長

皆さん今日は。

私は千葉日報をオンラインで購読していますが昨日、千葉県職員のボーナスが10年ぶりに引き下げられるというニュースがありました。民間企業のボーナスが減額される傾向にあるためにそれに追従する形での措置ということだそうです。

よく人事院勧告とか人事委員会勧告とか聞かれますが、国家公務員の給与を審議するのが人事院、地方公共団体を管轄するのが各都道府県の人事委員会で、民間は景気の動向や企業の業績に敏感に反応できますが、公務員は景気の影響を受けにくいところがあります。そこで民間企業とのバランスを保つためにこのような組織で公務員の給与や期末手当(ボーナス)の水準を判断していくものです。

昨日その記事の冒頭に千葉県知事とツーショットで写っている方に目がとまりました。パストガバナーの諸岡靖彦さん。なんと千葉県人事委員会の委員長をなさっていたのだと初めて知りました。いろいろなところでご活躍なのだと思いました。

今回の勧告を受けて県はボーナスの減額を実行することになりますが、それに伴い市町村も後に続くことになります。まずは期末手当の減額、それが長引くと給与体系についての見直しも条例変更という形で起こるかもしれません。地方議員の報酬も連動する動きになると思います。10年前のリーマンショックの時も同じような減額が行われました。

実は現在も富津市議会議員の報酬はコロナウイルス対策に回すという理由で、今年7月から自主的に10%の減額が行われています。この件はご存じの皆さんも多いと思います。当事者である議員も多弁を弄して一生懸命説明をしています。でももとに戻すときは何も言わないで「そっと」というか「こっそり」報酬を回復させることが一般的なんです。であれば報酬の減額もあまり宣伝しないほうが上品だと思いますが、そこは性というかどうしても「減額してます」と言ってしまうものなので市民の皆さんはあまりそれには反応しないほうが良いのかなと考えています。

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177　Fax. 0439-65-0178
URL http://www.futtsuchuo-rotary.org

会長報告 その1

先日、会員の中から提案がありまして三枝会員の入院で中止となった「句会」について、皆さんの中で俳句を準備していた方もいらっしゃるようです。

そこでそのような句を会員で持ち寄り、療養中の三枝会員の負担にならない程度に選句・講評をいただいたらという申し出です。私も賛成です。

強制ではありませんが有志という形でそれぞれこれはと思う俳句を一句選んで持ち寄り、それを三枝会員のもとに何らかの形でお届けし暇つぶしがてら御覧いただくということをやりたいと思います。

来週の例会までの期限といたします。どうか皆さんのとっておきの俳句を私までお願いします。

会長報告 その2

かねてより病気療養中の三枝会員からの報告「第2報」が藤江さんのところに FAX で届きました。全文披露させていただきます。

三枝一雄会員から届きましたクラブ宛への通信(第2報)です。

【病床日記】

入院して2～3日で発熱は引いてきたが、手足の皮がやたらはがれてきた。足の底から鱗のような皮が落ちる。両手も人間の手とは思えないように小さい皮のカケラが落ちる。前回書いたか忘れたけれども今度はヒザに激痛が走って曲がらなくなった。

最初の医師の計画書では、入院1週間だったけれどもとても駄目で患者から見ても長引くことを覚悟した。その上に今度は又右肩が痛くて上がらなくなった。箸も持てないので左手で食べる。両足・両腕が故障した為ベッドの上で動けない。全介助の生活となる。前回いみじくもカフカの「変身」と云ったが、本当に一時は「芋虫」の感じ、尿は尿瓶(しびん)で採ることになる。

「秋の暮 尿瓶 泉の声をなす 石田波郷」(波郷は清瀬で肺結核の手術を受けた俳人。読売文学賞を受賞)

波郷は40代だったから勢よく尿が出たのだろう。泉の声と表現したのはさすが詩人。こちらはチョロチョロ小川のせせらぎよりも細く静かで俳句にならない。

今まで年齢よりも若いと言われ、元気を自慢にしていた自分が数日にして身動き出来ない、皮膚もボロボロな醜い芋虫になるとは思いもしなかった。だがここでめげてはいけない。私として又医者としての見識によれば、急激に悪化したものは、急に良くなる。急性疾患は勝負が早い。船で言えば、一時の「時化」に耐えれば良いのだ。

ただ、自分に力が残っているかどうか。船の復元力、その力が高齢の自分にあるかどうかにかかっている。まあ、なるようになるということである。

ここで恩師藤村義朗先生の言葉を思い出す。

“病は自分持ち、寿命は神様持ち”

<u>恩師藤村先生の言葉</u>

『自分が今病気になったのは、体を無理して使ったせいで反省している。 しかし、寿命は自分にはわからない。神様がお前はもう休んでいいと思えば、このまま死ぬであろう。まだ世の中で働くようにと思われれば、また助かってよくなるだろう。

だから、あなた(主治医の私に向かって)は、私がよくならなくても心配しなくてもいいんだよ。』

こんな言葉を患者さんからかけられたことはない。日々に悪くなる恩師を助けられず、情けない思いをしている私をやさしく癒してくれました。

病室を出て雨の中を家へ帰る時、涙があふれて止まらなかった。“ボクも医師や看護婦にやさしくしなければ・・・”

今自分は何も出来ない「芋虫」だけど、師匠の弟子だから考える。“人間は考える葦である” と、パスカルは言った。私は考える芋虫である。

そう思って2～3日耐えているうちに、右手は良く

動いて肩の痛みも軽減した。治療は朝夕点滴（抗生剤）、午前・午後足浴、足を洗ってもらい、皮膚に薬を塗る。足からボロボロ鱗が落ちて炎症は収まる気配。芋虫生活も数日で何とか起き上がれるようになった。が、相変わらず左膝は痛い。右足のかかとから外くるぶしの下あたりが挫折したように痛い。毎晩鎮痛剤を飲んで耐える。1～2週間してどうやら峠を越えたらしい。時化は去りつつある。

「力尽くして山越えし夢　露か霜か　　石田波郷」

会長から心配して下さる電話を頂いたが、現在歩行のリハビリに向かっています。まだ油断出来ないけれど、御安心下さい。

幹事報告

栗原典子　幹事

1. コーディネーターニュース11月号回覧
2. 風の便り Vol.6No.3回覧
3. 2020-21年度第2790地区三委員会合同セミナー回覧
4. ハイライト米山 Vol.247回覧
5. ロータリーロゴの使用について回覧
6. End Polio Now リソースの案内回覧
7. 木更津東 RC11月例会変更のお知らせ
   11/20（金）10:30～15:00オークラアカデミアパークホテル「ガバナー公式訪問合同例会」（富津シテイ RC）　11/8（水）の振替え例会
   11/29（日）10:00～11:20太田山公園「桜植樹＆太田山清掃活動」 11/11（水）の振替え例会
   11/5（木）休会（定款第7条第1節c項）
   11/26（木）休会（　　　〃　　　）
8. 上総 RC、袖ケ浦 RC 週報受領回覧
9. クリスマス女性交流会12/19(土)

卓話

「創立記念日に寄せて」

志波　克　創立会員

頂いた題に従ってクラブ創立当時の状況などを少しお話しします。

ご承知の通り当クラブは昭和41年当時の大佐和町に大佐和ロータリークラブとして発足し、昭和46年に大佐和町が富津市になったことを受けて、昭和51年の10周年記念大会の時に富津中央ロータリークラブと改名しました。

余談ですが、当クラブでは5年ごとに周年記念行事を行い、記念誌を発行しています。唯一記念誌を出さなかったのは私が会長だった15周年だけです。来期は55周年ですので、神子次期会長さんには宜しくお願いいたします。

創立会員数は33名で、当時は原則1業種1名の会員でしたので、狭い地域に結構な数の業種があったということになります。そして業種代表となった会員さん達は品格が高く、立派な人が多かったです。そういう方々と一遍に知り合いになれたことは35、6歳だった私にとって大変有難いことでした。

当時はちょっとした会合でも背広にネクタイが普通でしたから、ロータリーの例会も当然背広にネクタイでした。例会でネクタイを締めなくなってから、ネクタイ着用の機会が激減し、ネクタイを買ったり貰ったりする楽しみが無くなりました。

出席がやかましく、親クラブの木更津 RC はずっ

と100％を続けていましたから、子クラブの方も必死で100％を続けました。出席に苦労したのはどのクラブも一緒で、当時大佐和 RC の例会日は土曜でしたのでメークアップし易かったこともあり、毎例会5～10名位のビジターが居りました。私もメークアップをフルに使っていましたので、近隣の街に顔見知りがたくさんできて、これも有難いことでした。

出席が厳しいことはクラブ外にも知られており、会員増強の断わられ文句は「出席が厳しいから無理」でした。

会費は今と同じ「年15万円」で、創立当時のサラリーマンの平均年収は50万円くらいでしたので、それなりの額でしたが、年に10万くらいずつ年収が上がっていく時代でしたから、あまり問題ではなかったようでした。

また当時は1ドル・360円で外国旅行などなかなか出来ない時代でしたので、昭和50年に始めたオーストラリア、カナダ等との交換学生は注目を集めました。ついでながら、ポールハリスフェローは36万円でした。

藤村義朗会員のお骨折りでアメリカ・トーランス RC と姉妹クラブを締結し、同クラブとの短期交換学生を始め、10年間で50名程の子供たちの交換を行い、地区から表彰されたのも思い出です。

親睦旅行も一泊や日帰りで毎年行っていました。

奉仕活動も活発で、創立数年のうちに、町役場や警察署に広報車、学校に教育用信号機、駅に伝言板、公民館に演壇と寄贈を行い、その他中学生の就職激励会、優良従業員表彰など行なっていました。

ところでその頃は、女性会員はいなくて全員男性でした。RI 定款の会員資格に男性と書かれていたのです。

1950年頃から世界各地で女性会員を認めるべしとの声が出始め、紆余曲折の末1989年の規定審議会で男性条件が削除され、1990年6月迄に 20，200人の女性会員が登録されました。そして 2020年7月現在、女性会員は約277，000人で全ロータリアンの約23％です。当クラブは現在約14％で、国際水準にはもう3～4名の女性会員が必要です。

折角の機会ですので、「社会奉仕に関する1923年の声明」について話します。

これは1923年の規定審議会で第34番目に議決されたので「決議23－34」と呼ばれ、ロータリーの基本理念を示したものとして有名です。

その冒頭に、ロータリーは利己的な欲求と他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。という意味の部分があり、その素直な表現には感心します。奉仕を義務ととらえ真剣に取り組んでいることが感じられます。

そしてその奉仕の仕方について書かれていますが、基本的には、あまり大きなことはやらず、引くに引けなくなるようなものには手を出さず、個人としての奉仕に努力しなさい、という感じです。そして最後に、「ロータリークラブでの社会奉仕活動はロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。」と書かれ、ロータリーの奉仕に対する方針が明確にわかります。

その後何十年と過ぎ、組織が大きくなってポリオプラスなどを始め、この方針に反するようになったので、23－34は手続要覧から削除されました。まあその後、「国際レベルのロータリープログラムと活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する機会を確認すること。」という項目の入った新しい声明と併記という形で復活しましたが、時代に合わせて変化していく組織の一端を眺めることが出来ました。

サピエンス全史の著者ユヴァル・ノア・ハラリは、「人類が地球上で動物の頂点に立てたのは物語をうまく作って人々を団結させられたから」だと言いますが、何か納得させられるこの23－34です。

また余談ですが、活動計画書を多くの人を団結させるという観点から眺めてみると面白いと思います。

なにか纏まらなくなりそうなのでこの辺で終わらせて頂きます。

ご清聴ありがとうございました。

委員会報告

「長寿者祝賀会」について

渡辺哲夫　親睦担当部長

親睦担当部より皆さんにご案内を申し上げます。

来る10月29日(木)18時から定例会終了後、高島治雄会員の瑞宝双光章(教育功労)の叙勲受章記念並びに還暦、古希、喜寿、米寿並びに卒寿に該当する会員皆さんの長寿者祝賀会を執り行います。家族会を含めご出席くださるようご案内を致します。

「米山奨学事業」について

渡辺哲夫　米山担当部長

会員の皆さんに改めてご案内とお願いを申し上げます。

ご承知のとおり、今月は米山月間です。米山奨学事業に対するご寄付事業の目的と活動に対して各会員の理解と積極的な参加をお願いします。

会員一人当たり15,000円のご寄付を来週の10月22日(木)の定例会までによろしくお願い致します。

ニコニコ BOX

岡田良弘　親睦担当

渡辺　務　　志波会員に卓話をしていただいて。
志波　克　　卓話をさせていただいて。
相川恵津子　志波会員の卓話をお聞きして。
玉井百合子　雨の中のご参加有難うございます。

出席報告

小野恒靖　出席担当

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	36/33	24	9		72.72%
前回	36/33	25	8		75.76%

近隣クラブ例会日　(通常 12:30 点鐘)

月	君津、袖ヶ浦(特別　最終例会は夜間)
水	木更津東(特 18:30)、富津ｼﾃｨ(特 19:00)
木	上総、木更津

編集後記

JR 東日本発行の月刊誌『大人の休日倶楽部』10月号の特集で、「房総の穴場　不思議ミステリー」の記事が掲載されていた。その中で、「弔いの穴は海を越えて」のタイトルで写真入りの2ページにわたって、富津市数馬地区にある岩谷観音堂の解説があった。

観音堂の解説プレート

観音堂と「やぐら」について、記事には次のように書かれている。

＜岩肌を四角に彫り込んだ穴。これは鎌倉時代に武士階級や僧侶によって造営された「やぐら」と呼ばれる有力者の墓所だと考えられる。「やぐら」を表す漢字はなく、平仮名で表記する。もともと神奈川県鎌倉市に多くあり、海路を使って、鎌倉と房総はよく行き交い、鎌倉と同じものが房総でも作られるようになった。

古墳時代の横穴を利用して造られたもので、鮎も遡上する湊川沿いの切り立った丘の中腹に、大小14の穴がぽっかりと口を開けているやぐら群だ。

伝説では、奈良時代の高僧・行基による一夜の作という。＞

「やぐら」について解説をする神子会員と椎熊会員

「やぐら」の入り口

岩谷観音堂の入り口と歴史を記す案内板

左に観音堂、右奥が「やぐら」

／わかなべ